



備前島久仁子

10年後の 超高齢化社会への準備は

町 住み慣れた地域で暮らせるよう 「地域包括ケアシステム」に取り組む

Q 高齢者福祉への取り組みを、どう考えているか。

〈町長〉 10年後には団塊の世代が75歳以上になるため、かつてない超高齢化社会がくる。

重度な要介護状態となっても、住み慣れた地域で自分らしく暮らせるよう、住まいと医療、介護、予防、生活支援が一体的に提供される「地域包括ケアシ

ステム」の構築を目指している。さらに、生きがいの創出や介護予防の推進、見守り体制の充実を図ることが重要と考え、筋力向上トレーニングの実施やふ

花火鑑賞や農業イベント、「玉村カレーの日記念」大試食会も計画する。

Q 全国的に「ふるさと納税」が話題になっている。寄附

れあいの居場所づくりを進め、健康寿命を延ばしていく。シルバー人材センターや長寿会への支援も継続し、明るく活気に満ちた高齢社会づくりを進めていきたい。

が多く、特産品を生産するための雇用がふえ、若者のUターンが増加している自治体もある。当町も、特産品の開発やPRを積極的に行い、活性化すべきでは。

Q 道の駅のオープ

ンが待たれるが、交流の場として、どのようなイベント活動を予定しているのか。

〈町長〉 平成26年度は150人から寄附をいただいている。新年度から、クレジット決済でも寄附ができるようにする。



筋トレ10周年「筋トレまつり」

〈町長〉 農産物フェアや友好交流都市フェアを定期的に行うほか、

「道の駅」事業の成否の鍵は何か

町 他の道の駅との差別化を図り 特徴を前面に出していく



筑井あけみ

Q 5月に開業予定の「道の駅」だが、事業の失敗は許されない。商業施設として、経済の活性化と消費の喚起を目的に運営されるが、休憩・情報発信・地域の連携施設としても期待される。独自性がなければ成功しないと考えるが、どのような運営を行うのか。

〈町長〉 国道354号沿いに道の駅はないため、食堂や大型駐車場、24時間使用可能なトイレを整備することで、ドライバーの休憩施設として利用を促進できる。施設内には、町の観光情報や直売所の特産品、新メニュー広告などを表示し、来場者を誘導したい。また、県立女子大と道の駅の活用方法を研究するほか、新たな展開として、全国の大学へも連携の枠を広げていく。学生等の受け入れ体制も整備し、インターシップなどを通して、若者の就業意欲増進及び交流の場としての活用も図っていく。



三友美恵子

さらなる住みよいまちづくりの 施策を求む

町 福祉や公共交通など、地域力の向上を目指す

Q 地域包括ケアシステム構築は、どのように進めるのか。

〈町長〉 具体的には、筋力向上トレーニング事業の充実や「ふれあいの居場所づくり」を進める。また、在宅医療・介護の連携を、専門職だけではなく地域の方々を巻き込みながら、県や医師会等の関係団体と協力して進めていく。

Q 「ふれあいの居場所」を、今後どう進めるのか。

〈町長〉 地域の介護予防や認知症予防、生きがいがづくりを通じた絆の強化、地域力の向上

を目指す。今後は要支援1・2の方たちの受け皿になっていただきたい。

Q 東毛広域幹線道路の全面開通に合わせて、東毛地域の沿線都市と高崎駅とを連絡する急行バスが運行されるよう、交渉は進んでいるのか。

〈町長〉 進んでいない。今後働きかけを続けていく。

Q 「道の駅玉村宿」への、「たまりん」の乗り入れを考えているのか。

〈町長〉 オープンには間に合わないが、西コーズと高崎直行の乗り入れを考えている。

Q ボランティア活動の推進と企業の連携について、どのように考えるか。

〈町長〉 現在、住民活動サポートセンター「ばる」で、企業の社

会貢献活動に対しての調査を行っている。今後、住民活動とのマッチングをしていく。



「ふれあいの居場所」をテーマにした討論会

Q 情報発信や地域の活性化をうたっても、結局のところ、消費者がわざわざでも行きたいと思えるような存在感を出せるかと思う。ほかの道の駅との激しい競争にどう立ち向かうのか。その戦略を問う。

〈町長〉 友好交流都市の連携により、さらなる品ぞろえの充実を図る。また、食肉卸売市場の「肉の駅」においても、新鮮な肉など評判のよい特産品を販売する。特徴を前面に出し、集客を図っていく。



5月31日オープン予定の「道の駅玉村宿」